

選んだ仕事をまっとうし、妻との時間も手をぬかず、まっすぐに自分の人生を歩いて来れたのかな

湯河原(ゆうゆうの里) 若勢憲一様(76歳) 令和4年3月 一人入居

出版社に入社してから引退するまでの間、水道事業のための仕事をしました

大学を卒業した時は全く就職するつもりがなく、翌年の一月に新聞を見て応募したのが水道事業を専門に扱う出版社でした。その年の10月に大阪転勤の話があり、新人のくせに立候補して転勤を勝ち取りました。僕は東京育ちだけけど、大阪はとても肌に合っていました。水道の水は絶対安全でないといけない。水道局が管理し、地方自治体や地方公共団体が水道事業を経営しています。そういう水道事業者の役にたつ専門紙や専門図書を

提供する会社です。全国のみならず海外にも取材に行きました。定年後も非常勤顧問として務めた後、NPO法人の役員に。その法人は水道管の水を止めずに、内視鏡を使って水質評価を行う技術を開発しました。75歳で湯河原へゆうゆうの里へ入居するため引退するまでの間、水道事業のために尽くすことができました。

登山や旅行を同じ趣味にしていた妻が倒れて

一つ下の妻との出会いは大阪転勤の時代。彼女は僕の下宿先のマンションに住んでいて、思い切つて声をかけたことから、お互いを知ることになりました。彼女の勤め先は弁護士事務所でした。7人兄弟の末っ子で我慢強く、じつと状況を観察していて、たまに言うことは的を射ていました。冗談も通じるし楽しい。盆暮れにはちゃんと墓参りに行ってすごいなと感心しました。

彼女は山歩きが好きで、弁護士事務所の間と一緒に山岳連盟に入っていました。僕も一緒に登山や旅行に行きました。10年前にノ



ルウエー旅行に一緒に行つたときに、歩く途中で休むことが多かったので、帰って受診すると肺塞栓症とわかりました。肺機能を維持するのにスキューバダイビングがいいと勧められて以来、彼女は50回ほど潜りに、友達とフィリピンや沖縄のケラマに行っていましたね。それだけ元気だった妻が、6年ほど前、くも膜下出血で倒れたのです。手術後、妻は週3回のデイサービスに通い、僕が自宅介護をしました。

残された自分のための選択

彼女が二度目の脳内出血で倒れたときは半年位入院。会話はできましたが、運動機能が落ちてしまいい車いす生活になりました。それでも彼女を支えながら、安心して眠る妻の横顔を見るたびに幸せだなと感じることができました。二年ほど前、妻は74歳で亡くなりました。辛いことでしたが、一所懸命看ることができたのが救いです。

子どもがいないので、実は二人で入居することも考えて、神戸や

湯河原(ゆうゆうの里)を検討したことがありました。入居時自立が条件なので断られましたが、一人になって自分の選択を考えた時、厳格に条件を守っているのは、逆に信頼できると思えました。湯河原には憧れの「緑、海、温泉」という環境があるので、ここに決めました。

入居してからの一日一日は想像を超える楽しい時間となりました

週間リズムは、(月)駅前で麻雀、(火)強い方の麻雀サークル、(金)麻雀を教える日と麻雀を中心に、他にカラオケサークルの日、熱海マリンスパのプールの日もあります。プールでは30分で一キロ位泳ぎます。食堂で三食しっかり食べるようになったので健康な体質に変わってきました。バイクで近隣を走つて、気になるものを写真に撮り、文章で記録に残したりするのも楽しいです。

麻雀は上達したいと、駅前の麻雀荘に行くようになりました。そこで麻雀の全国大会に出ないかと薦められ、来年出ることにしています。大会に向けてアベマTVを観て一流のプロの麻雀対局を研究しています。積極的に人間関係を作って行こうと思えば、里の中にはそれに応えてくれる人が必ずいます。そのおかげで楽しいことが広がって行きます。



ありし日の奥様とカンボジア・アンコールワットで